

一般社団法人バンビーノ福祉会

令和 6 年度 事業報告書（令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日）

1. 地域支援・多職種連携の取り組み

■ 地域の医療的ケア児支援体制の状況

久留米市における医療的ケア児は 72 名、者は、25 名（令和 6 年度時点）。在宅療養、通学、短期入所、医療との連携など、多職種が継続して関わる支援体制が求められている。

■ バンビーノ福祉会としての地域貢献・多職種連携

当法人は、医療的ケア児および重症心身障害児者が地域で安心して暮らせるよう、行政・教育・医療・福祉が連携する中核的役割を担っている。

● 医療的ケア児等コーディネーターとしての活動

法人代表が福岡県および久留米市の医療的ケア児等コーディネーター（トータルアドバイザー）を兼務

- ・ NICU・小児 ICU 退院支援、個別支援計画支援、電源確保・避難訓練の支援
- ・ 地域の医療的ケア児家庭・事業所への専門相談支援
- ・ 各地域の医療、教育等体制整備支援
- ・ 福岡県小児等在宅医療推進会議出席

- ・ 福岡県医療的ケア児等コーディネーター養成研修 講師 ファシリテーター

（研修内容 医療的ケア児者の終末期 虐待 地域体制整備）

- ・ 山口県医療的ケア児等コーディネーター養成研修 講師

（医療的ケア児のライフステージに応じた支援 災害時支援 医療依存度の高い児童の支援 虐待 地域体制整備）

● 久留米市における地域生活支援体制の構築

・法人代表が久留米市重症心身障害児者地域生活支援事業の市コーディネーターを担当し、地域の支援体制構築に中心的役割を担っている。

主な取り組みは以下の通り。

- ・ 短期入所支援事業の継続的支援を行い、医療的ケア児者や重症心身障害児者が安心して利用できる環境を整備
- ・ 地域連携会議の定期開催により、行政・医療・福祉・教育機関との協働を推進
- ・ 地域の専門職・家族・地域住民を対象とした研修を継続的に実施し、地域全体の理解促進と支援力向上に寄与
- ・ 医療的ケア児等コーディネーターを組織化し、支援体制を強化→スキルアップ研修の実施
- ・ 医師会との連携による医療移行期（小児→成人）課題への共同取組みを推進
- ・ 教育委員会と連携し、就学支援や学校生活の調整をサポート

● 自立支援協議会への参画

当法人職員が久留米市自立支援協議会 重症心身障害児者分科会 副会長を担い、市全体の支援体制強化へ貢献

- ・ 災害時支援 避難訓練や個別支援計画策定のサポート
- ・ 医療的ケア児者が利用できるサービスのとりまとめ等

● 地域研修・人材育成

- ・ 地域の相談支援専門員向け研修の実施
- ・ 医療的ケア児支援の啓発、事業立ち上げ支援、地域全体の専門性向上に寄与

2. 事業実績

1. 事業の成果

① 相談支援事業所バンビーノ（久留米市津福本町 718-3）

総売上 44,029,180 円

（障害児相談支援 39,065,470 円・計画相談支援 4,903,710 円）

契約者数 426 名（障害児相談支援 357 名／計画相談支援 69 名）

【相談支援事業の拡充と地域連携による質の向上】

1. 業務量の増加と対応強化

- ・ 前年度比で担当件数・新規案件が大幅増
- ・ NICU 退院支援・発達障害児支援の増加
- ・ 医療的ケア児の担当可能な専門員の重要性が高まっている

2. 人員体制の充実

- ・ 新規で相談支援専門員 2 名を増員
- ・ 専門性の高い医療的ケア児支援に対応

3. 研修の実施

- ・ 自主研修の開催、他事業所の参加も可能
- ・ 実践的テーマにより地域全体の相談支援力向上

4. モチベーション維持と質の向上

- ・ 週 1 回ミーティングで方針確認
- ・ 基幹センターとの連携、事例検討で専門性向上

5. 地域全体への貢献

- ・ 機能強化型事業所、主任相談支援員として「相談ネット」に参画
- ・ 地域の相談支援体制の整備に貢献

6. 管理者の広域活動

- ・ 福岡県・久留米市の医療的ケア児等コーディネーターとして活動
- ・ 医療的ケア児支援の啓発・研修活動を実施

② 生活介護どんぐり（久留米市藤光町 183-1）

総売上 15,631,480 円

延べ利用人数 758 名

契約者数 9 名（重症心身障害者が中心、呼吸器管理あり）

【主な取り組み】

- ・ 排痰・呼吸リハビリに注力し、帰宅後の安定を支援
- ・ 児童との交流、感覚遊び、音楽活動、散歩など日中活動を充実
- ・ 入浴サービスによる保清支援

③ 多機能型障害児施設ころころ

総売上 84,293,345 円

（児発 33,088,993 円／放デイ 50,773,981 円／保育所等訪問支援 235,240 円）

延べ利用人数 2,973 名

【主な取り組み】

- ・ 季節活動、五感刺激、クッキング、お出かけなど集団療育を実施

- ・ PECS・視覚スケジュールで自発的行動を促す環境設定
- ・ 個別リハ（机上課題・呼吸リハ・腹臥位・歩行器・立位台）
- ・ 視線入力によるコミュニケーションの拡大
- ・ 看護体制による体調管理
- ・ 秋祭りを開催し家族・きょうだい児と楽しむ場を提供

④ 短期入所

総売上 16,042,824 円

延べ利用者数 308 名

【主な取り組み】

- ・ 久留米市短期入所事業を活用し安定運営
- ・ 看護師＋介護／セラピストで 1 泊 2 日を提供
- ・ 家族のレスパイト支援が主目的
- ・ 医療的ケア児の利用が大半
- ・ 土曜泊の設定で新規契約増・増収

⑤ 日中一時支援

総売上 568,908 円

延べ利用者数 147 名

- ・ 定休日・時間外の補完サービスとして活用
- ・ 利用者増により増収

⑥ 感染対策

- ・ 消毒・検温・体調管理を継続
- ・ 玩具・リハ道具の毎回消毒
- ・ 感染対策研修を実施し意識向上

⑦ 職員研修

- ・ 毎月計画的に研修
- ・ 自社専門研修＋外部講師研修
- ・ 専門性向上とコミュニケーション強化

⑧ 働きやすい環境の整備

- ・ 内部相談役を配置し、きめ細やかなフォロー
- ・ 職場環境の安定 → 離職防止につながる
- ・ 令和 7 年度より評価制度導入予定

【総括】

- ・ 相談支援は顧客・売上ともに大幅増
- ・ 通所部門は稼働率向上が課題
- ・ 短期入所は安定収益を確保

- 職員育成と環境整備を強化し、地域中核事業所としての役割を継続